

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	0490500113		
法人名	社会福祉法人 千香会		
事業所名	グループホーム ぼらん		
所在地	宮城県仙台市東新城1-3-3		
自己評価作成日	平成27年 10月 15日		

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://www.kaijokensaku.jp/
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	NPO法人 介護の社会化を進める一万人市民委員会宮城県民の会		
所在地	宮城県仙台市宮城野区榴岡4-2-8 テルウェル仙台ビル2階		
訪問調査日	平成27年11月13日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

今年3月に市内の新たな地域へ再建・移転しました。姉妹事業所のグループホームやデイサービスが隣接しており、利用者様同士が行き来できる支援や、職員間の連携も図れています。職員には外部研修への参加を促し、毎月の勉強会を実施するなど、各々がスキルアップを図れる機会を設けています。利用者様支援では受容と傾聴を重んじながら、利用者様の希望や必要なケアについて、職員間で意見を出し合って対応しています。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

仮設から移転したホームは、道路から玄関やホームの中までバリアフリーになっており、入居者に優しい配慮になっている。入居者も新しい環境に戸惑うことなく、日常的な散歩や四季折々のドライブに出掛け日々楽しんでいる。職員も「レクリエーション・行事」等委員会があり、入居者に良いサービスを提供するために工夫・改善に努め、笑顔を大切に日々寄り添う介護を実施している。地域や家族の方に認知症を理解して頂くために、「認知症カフェ」を開催し、認知症に関する情報をお茶を飲みながらの相談や寸劇で地域に発信している。例年のポラン祭りには、入居者と一緒にフラダンスを披露し楽しい一時を過ごしている。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいの 3. 利用者の1/3くらいの 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○ 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○ 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○ 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○ 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない			

2 自己評価および外部評価結果(詳細)(事業所名 グループホームぼらん)「ユニット名

」

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	法人理念およびホーム独自で作成したサブ理念と一緒に玄関やネームプレートの裏、と目のつくところに明示し、利用者様が安心して生活できるような環境作りに取り組んでいる。	今年度全員で考え作成した「笑顔と感謝」のサブ理念を職員は理解し、共有している。ケアの関わりの中でも家族と同じように接して、お手伝いをさせていただいた時には「ありがとう」と笑顔で感謝を伝えている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	地域の方との交流は少なかったが、日常の挨拶にて施設があることが少しずつ浸透してきている。今後、消防訓練の参加協力を含め、活動・交流の機会を増やせるよう努めていく。	散歩の時、近隣の方に気楽に挨拶をしたり、野菜を頂いたりしている。入居者が近所の上棟式に参加し、昔を思い出し目を輝かせながら餅を拾っていた。地元ボランティア(踊り、三味線)が来訪している。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	法人として認知症カフェを開催している。キャラバンメイトもホームに在籍しており、今後は養成講座を含め認知症について伝える機会を増やせるよう努めていく。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	移転後の3月以降、2回実施している。消防訓練について、地域の方の協力を頂く為の助言を受けている。今後の訓練時には御意見を活かし実施する予定である。	地域包括支援職員、行政委員、民生委員、入居者、家族が参加している。出席者より、他法人の避難訓練に参加しての地域住民の役割の情報や認知症サポーター講座の活用方法等意見交換がなされている。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	日頃から連絡、相談で足を運んでおり、今後も協力関係を維持できるよう努めていきたい。	今回、新築ホームの移転について相談をし、指導をもらった。包括主催の地域の方や家族がお茶を飲みながら気楽に認知症の相談が出来るオレンジカフェに主任が参加している。調査当日は市職員の同行があった。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	勉強会にて理解を深め、拘束のないケアの工夫に努めている。離園の可能性のある方の場合、見守り出来る環境作り、職員間での所在確認を行っている。	職員は勉強会を通して身体拘束による弊害を理解しケアに取り組んでいる。外出傾向のある方は、行動や表情を把握し、見守りや声掛けで対応をしている。外出をした時は一緒に散歩に行き支援をしている。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	外部研修や勉強会にて理解を深めている。言葉使いや接し方に気をつけ、安心していただけるよう努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	まもりーぶを利用されている方がいるが、成年後見制度については今後も理解を深められるような機会を設けていく。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約変更また新規契約時には、事前に連絡や配布し目を通していただいた上で質問や疑問点を確認しながら説明を行っている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	意見箱の設置や毎月の施設便り、その他連絡の際に、ご意向等のお声掛けを頂けるよう言い添えている。	家族が来訪の時近況を話し意見や要望を聞いている。外泊時、排泄やお風呂の世話の大変さを聞き、ホームでの対応を話した。毎月の「瓦版通信」でベストショット写真や居室担当の近況報告を送付している。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	毎月の全体ミーティングでは代表者も出席し、業務やケアに関しての意見や職員の要望を聞く機会を設けている。	寝たきり入居者にリクライニング車いすの購入や室内物干し場の設置等、職員の意見が反映されている。職員は、代表を交えて自由に発言することが出来ており、ホームの運営に活かされている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	個々の事情によっては短時間の勤務体制等、就業環境の整備を頂いている。また、小さなことでも職員の努力は常に正当に評価するとともに、併せて敬意や謝意を表している。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	キャリア形成・キャリアアップの啓発を継続的に行い、資格試験料は全額補助している。また、勉強会では外部研修の伝達を行い、他の職員の知識向上に役立っている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	代表者は加盟している宮城県GH連絡協議会や気仙沼介護サービス法人連絡協議会および行政主催の研修会に各々の職員が参加できる機会を設け、他法人との交流を促している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入居に関する総合相談室を設置しており、入居申し込みの段階からご本人、ご家族から不安な事や要望等を傾聴し把握するよう努めている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	同上		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	入居判定会議では、代表者、管理者、入居相談担当者が、当面配慮すべき点などを確認し支援につなげている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	ご本人の好まれる活動を探り支援できるよう努めている。また、個々の役割を考慮しながらお手伝い頂いている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	誕生会等の行事にはご家族へお声掛けしている。毎月のベストショットを送付することで近況報告を行い、つながりある関係づくりに努めている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	姉妹ホームに知り合いの利用者様がいます。方もおり、時々訪問している。また、希望があればご家族や知人に電話や年賀状等の支援を行っている。	孫が曾孫を連れて来訪し、一緒に写真を撮りお部屋に飾っている方、旦那さんの法事に出掛ける方、正月に娘さんの家に外泊する方、部屋で仲良し同士昼寝をする方など馴染みの関係が途切れない支援をしている。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	対人関係等の環境づくりはその都度、職員間で確認し合い利用者様同士が良い関係が保てるよう心がけている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	入院、退居となった場合も、見舞いや状況把握に努めている。ご家族より相談等があれば出来る限り応じる姿勢をとっている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	日頃の会話等から思いを汲み取り、また引き出せるよう努めている。記録や申し送りや職員間の共有を図っている。	散歩や入浴支援等リラックスしている時の会話から、希望や思いを把握している。把握困難な方には表情(眉間にしわが寄せた時はだめ)や行動(落ち着きがなくなった時はトイレ)で判断し支援している。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居前の情報としてご本人やご家族から生活歴や趣味等の情報を聞き取り閲覧できるよう整備し入居後は気づきを記録に残し共有している。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	ケアについて留意点を記載したファイルの準備、また日々の体調や言動等の1日の様子を申し送りで周知している。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	日常の会話から希望を汲み取り、ご家族からは主に面会時に意向の確認に努めている。モニタリングでは職員の気づきも計画に反映している。	本人、家族の思いを聞くほか、かかりつけ医の意見を参考に作成している。脳梗塞で麻痺した方のリハビリをケアプランに取り入れ、本人の頑張りもありスプーンで食事をしたり編み物が出来るように回復した。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	総合グラフでこの変化が分かりやすくなっている。生活の様子は個別記録しケアプランの支援が実施できているかチェックしている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々にも生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	身体状況に合わせて外出時の送迎を行い、通院付き添いが困難なご家族様に対しては代行して結果を報告している。状態により医療機関にも報告・相談するなど、柔軟な支援を提供している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	市内美容室からの散髪ボランティアを受け入れている。今後、地域資源についての把握、協力体制づくりに努めていきたい。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	ご本人のかかりつけ医へ定期的な受診支援もしくは代理受診にて、体調管理に努めている。	受診時は、入居者の状態とバイタルを書いた総合グラフのコピーを持参し、職員が同行している。主治医の意見、助言は記録簿に残し、職員で共有している。何か変化があった時家族に電話で報告している。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	日々の体調の変化があった場合は、随時かかりつけ病院や救急対応できる病院へ電話相談や受診を支援している。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院された場合には、こまめな面会と状態把握に努め、また電話等で医師や関係職種と情報交換、相談を行っている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	重度化した場合については、ホームでできる事を伝えるとともに、状態の変化に応じて他施設への申請の意向を確認・話し合うようにしている。	入居時、重度化や終末期の対応についての「看取り指針」を成文化した文書を示し、ホームの出来る対応を家族に説明し同意を得ている。看取りの経験は無いが職員は外部等の勉強会に出席している。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	緊急、急変時マニュアルを準備し、勉強会でも確認を行い、全スタッフが対応できるよう備えている。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	夜間想定を重視した火災訓練を実施している。地域協力について、運営推進会議で検討している。また、避難に備え備蓄品等を準備している。	消防署立ち会いで、避難経路を作成し、年2回行った。スプリンクラーが作動するため水の中を避難することを念頭に入れる等アドバイスを受けた。玄関に防災リュックを置いていたが、地域住民の参加はなかった。	防災には、地域の方々の協力が不可欠である、運営推進会議等を活用し、地域の方々に呼びかけ、地域住民参加の避難訓練をお願いしたい。

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	一人ひとりに合わせた声掛けを行い、受容傾聴に努めている。会話での疎通が困難な方でも表情から読み取るよう努めている。	声掛けは、親しみを込めて「さん」付けで呼んでいる。話す時は、その方々に合わせ分りやすい声掛けや声の大きさ等配慮しながら対応し支援している。特にトイレ誘導時には他の入居者に配慮して声を掛けている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	意思を伝えられる方からは随時、希望も話されておりまた、おやつや着替え選び等、自己決定して頂いている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	希望があれば、その日の小ミーティングで話し合い、出来る限り支援できるよう業務調整を行っている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	ボランティアによる散髪や希望に応じて整容品、衣類などの購入を支援している。毎年のぼらんまつりではお化粧品や外出着で外出している。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	行事食や誕生月には好きなメニューを取り入れている。また状態に応じて、食事の盛り付けや後片付け等のお手伝いを一緒にやっている。	一人ひとりに対応して刻み食、ミキサー食等調理方法に工夫して食事を提供をしている。誕生日には、本人の希望を聞き、ハンバーグ、オムライス、いなり寿司やお刺身好きの方は職員と外食をしている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	一日の食事水分摂取量を記録し、少ない場合には補食を提供している。またその方の状態に応じペースト食や刻むなどして提供している。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後、誘導や必要に応じて介助を行っている。診察希望があった時や状態によって、随時訪問歯科を依頼している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄チェック表を活用し、パットやリハビリパンツを着用している方でもトイレへの誘導を行い、出来るだけトイレで排泄していただこう努めている。	一人ひとりの状態に合わせ、歩行介助、声掛け、パットの使い分け等でトイレ支援をしている。夜間は、声掛けやポータブルトイレ等個別に対応をしている。適切な支援でリハパンから布パンツに改善された方もいる。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	排泄チェック表を活用し、排便周期に応じてかかりつけ医と相談しながら下剤を処方していただいている。また漢方薬を提供している方もいる。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	声掛けをし拒否がある場合は、時間や日をずらして対応している。入浴時も体調を確認しながら負担のかからないよう支援している。	一番風呂や好みが入浴剤等本人の希望に添って、週2～3回の支援をしている。拒む方には、「薬を塗りましょう」等誘い方に工夫をしている。職員と昔、薪で風呂を沸かした話や歌いながら入浴している方もいる。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	安全、安心の為に個別に応じスタンド照明や暗くなるのが不安な方には眠られたのを確認して消灯している。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	個別受診記録に薬説明書を綴じ、いつでも確認できるようにしている。薬ケースに与薬表を貼付、準備時も複数の職員で確認し誤薬防止に努めている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	食事の準備や簡単な裁縫、花の手入れ等、生活歴や好まれる活動を把握しながら、日課として続けられるよう支援している。お菓子や飲み物など個別で用意している方は希望時に提供している。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	天候や当日の状況をみながら散歩や外気浴を支援している。ご本人の希望によってはご家族に外出支援のご協力をいただいている。	天気の良い日は、車いすの方も一緒にホームの周辺や近くの川沿いを散歩をしている。年間行事で、市民会館の桜、みなと祭り見物、室根山のツツジ、室根のりんご狩り等四季折々に出掛け、帰りに外食を楽しんでいる。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	お小遣いはホーム管理となっているが、買い物の際など自由に使える事を利用者様にお伝えしている。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	希望があれば職員が電話をかけ、電話口に代わるところまで支援している。年賀状では、書ける方にはメッセージを書いていた		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	季節の行事、日頃の日課の様子等の写真をホールへ掲示している。季節感を感じていただけるよう植物を置いている。	ホールは、天窓が高く自然な光が差し込み、適湿温に管理している。壁に芋煮会や行事の楽しそうなスナップ写真が貼られている。ソファで仲よし同士テレビを見たり演歌を手拍子に合わせ歌ったり寛いでいる。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	ホールにソファを置き、気の合う利用者様同士の交流の場となっている。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	カレンダー、時計の他、一人ひとりの希望に応じ仏壇やテレビの設置、ご家族との写真を飾るなどしている。	使い慣れたタンス、テレビ、テーブルや本人が好むぬいぐるみを置き、曾孫の写真を飾り、編み物をしたり、ラジオを聞いたり、好きな本を読んだり、ゆっくりと寛ぎ、心地良く過ごしている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	居室、トイレは分かりやすいように表示している。浴槽には滑り止めマットや状態に応じ、バスボードや浴槽台を使用している。		